

生誕450年

伊達政宗の生涯をたずねて

第10回

仙台市博物館 学芸員 菅原美咲



鷹のプレゼント

東北地方は古くから良質な鷹の産地として知られます。伊達家でも古くからの為政者へ鷹を贈りました。伊達政宗も贈物や献上品として様々な場面で鷹を贈っています。天正十七年（一五八九）六月、小田原参陣を催促する豊臣秀吉に対して友好の意を示すため、赤い目の鶴と、鶴を捕らえた鷹を贈りました。返礼として秀吉から贈られた太刀「綱国行」は政宗の愛刀として有名です。



(写真右) 鷹 伊達政宗所用 仙台市博物館蔵、(写真下) 太刀無銘(綱国行)個人蔵 ※いずれも特別展「伊達政宗—生誕四五〇年」(十月七日～十一月二十七日)に展示



(一六二四)は鷹の調達や調教が進まず、鷹の献上に支障がでたことに怒った政宗は、関係者一人を磔にするという厳しい処分を行っています。それほど、鷹献上は幕府との関係を保つための重要な品だったといえます。

鷹狩り休暇

政宗は大変な鷹狩り好きでした。慶長六年(一六〇一)には、江戸滞在中の鷹場(鷹狩りを行うことを認められた場所)として徳川家康から久喜(埼玉県久喜市)の鷹場を拝領しました。

寛永二年(一六二五)十一月十五日、江戸にいた政宗は大御所徳川秀忠から鷹狩りをしつてゆつくり休養するよう命じられ、「御鷹」を拝領しました。「御鷹」は將軍や大御所が所有していた鷹を示し、「御鷹」の拝領自体が大名にとつては名誉なことでした。休暇をもらった政宗は一ヶ月近く久喜に滞在し、連日鷹狩りを行いました。

久喜では、まず秀忠から拝領した「御鷹」で捕らえた雁を一番最初に秀忠に献上しました。「御鷹」の拝領と「御鷹」で獲った獲物の献上は一連の行為であり、鷹を通じて幕府と大名の主従関係を確認する意味も持ちました。秀忠への雁の献上以後も連日鷹狩りを行い、雁・菱食・青鷺などを獲りました。それらは

幕府役人や他大名への贈り物として随時進呈されました。

息子にも狩りの心得

寛永二年五月、江戸から嫡男伊達忠宗を仙台初入国に送り出すに当たって、政宗はその心得を九ヶ条にわたって記しました。そのうち六ヶ条が鷹狩りや鉄砲など狩猟に関わる内容です。白石(宮城県白石市)を除き白鳥は鉄砲で撃つこと、藩内の鷹場であればどこでも政宗と同様に使用してよいこと、など次期藩主となる忠宗に指示をされており、領内各地で狩猟を行い領内視察を行うのがよいという政宗の意向が読み取れます。

死期が近づいても

寛永十三年(一六三六)四月、政宗は病をおして江戸へ参勤のため出発します。病状が悪化するなかでも政宗は途中で鷹狩りを行いました。政宗の死期を見届けた小姓の記録によると、亡くなる四日程前、すでに死期を悟っていた政宗でしたが「病気が回復したならば暇願いをして、江戸近辺で鷹狩りを行おう。国許から鷹を呼び寄せよ。」と心配する人々の気持ちに元気づけたといえます。五月二十四日に死去した政宗の遺骸は、久喜を経て仙台へと戻りました。鷹狩りを好んだ政宗は最期まで鷹狩りを愛した大名といえるかもしれません。

※本稿では仙台市博物館の学術研究機関たる立場から歴史上の人物名に敬称を付しておりません。

特別展 伊達政宗—生誕450年記念

10月7日(土)～11月27日(月)

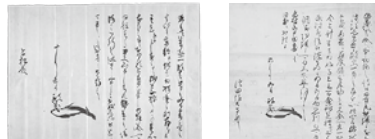
○会期中、展示替えを行います。
前期:10月7日(土)～10月29日(日)、後期:10月31日(火)～11月27日(月)

- ◇観覧料:一般:1,200円、高校・大学生:1,000円、小・中学生:800円 ※10名以上の団体は100円引き ※このほか各種割引があります。詳しくはお問い合わせください。
- ◇休館日:毎週月曜日(10/9、11/27は開館)
- ◇開館時間:9時～16時45分(入館は16時15分まで)
- ◆当日利用できる割引券は、博物館ホームページからダウンロードできます。



重要文化財 伊達政宗所用 山形文様袴 仙台市博物館蔵 通期展示

歴史が動いた!摺上原合戦・小田原参陣に関する手紙



(左) 国宝 伊達政宗書状 上杉景勝宛 (天正17年・1589) 10月6日 米沢市上杉博物館蔵【後期展示】
(右) 伊達政宗書状 須田佐渡守宛 (天正17年・1589) 6月5日 仙台市博物館蔵【通期展示】

秀吉から拝領した政宗の愛刀 綱国行



太刀無銘(綱国行) 豊臣秀吉所用 伊達政宗拝領 個人蔵【通期展示】

仙台市博物館 TEL:022-225-3074 仙台市博物館 検索